

フローリングの施工方法とメンテナンス

施工について

釘・糊併用法

【合板捨貼下地】

- ◇根太下地、根太に使用する材料は十分に乾燥したもので、仕上げ材を貼り込むに必要な強度を有するものとします。
- ◇根太間隔は300mm程度として均等に配置してください。
- ◇必ず12mm以上の耐水合板を捨貼りしてください。この場合、床鳴り、たわみ、目違いがないように注意してください。
- ◇下からの湿気が多い場所では、0.1mm以上のポリエチレン防湿フィルムを敷くなど、湿気対策をしてください。
(防湿フィルムは合板と下地の間に敷いてください。)
- ◇遮音マットシートに直接施工しないでください。

直貼り工法

【モルタル下地】

- ◇セルフレベラーで下地調整し、不陸は1mにつき2mm以下にしてください。
- ◇下地の乾燥は、モルタル水分計で測定して8%以下とし、土間に接するコンクリートは防水処理をしてください。乾燥が不十分な場合、接着不良、床材の反り・伸びなどの不具合が生じることがあります。
- ◇出入り口、壁等の貼り代は、高低の差が均一になるようにしてください。
- ◇下地の凸凹、ゴミ、ホコリを除去してください。
- ◇施工室温は18℃以上が標準です。
- ◇遮音マットシートに直接施工しないでください。

【仮並べ】

- ◇施工1週間前には開梱し、施工現場に馴染ませるために2～3日は仮並べしてください。
- ◇天然木のため、色・柄にバラツキがあります。仮並べの際、節、色目、柄のバランスを調整してください。
- ◇また、乱尺のフローリングは、長さの長いもの、短いもののジョイントが集中しないように仮並べしてください。

【クリアランス】

- ◇壁際には必ず5～10mmほどの隙間を設けてください。天然木は馴染むまで伸縮を繰り返します。
- ◇ビニル巾木の使用は避けてください。
- ◇気候条件、季節、室内などの影響を考慮し、フローリングの密着部分に隙間を空けて施工することで、施工後の突き上げを回避できます。特に乾燥した冬季に施工する場合は、湿度が高くなる季節に材料が伸びることを考慮して隙間を設けてください。
複合フローリングは5～10枚おきに、無垢フローリングは2～3枚おきに、フローリングの密着部分に名刺1枚分程度の隙間を設けてください。
- ◇施工スパンが10mを超える場合は、10m毎に7～10mmのエキスパンションを設けてください。

【合板捨貼下地への施工】

- ◇フローリングは、根太に直角に施工します。
- ◇接着剤と釘の併用で施工してください。
- ◇接着剤は、木質床材用ウレタン樹脂系接着剤を使用してください。
部分塗布を避け、くし目コテ等で下地全体に塗布してください。
木工用ボンドは使用しないでください。床鳴り及び黒シミの原因になります。
- ◇釘は長さ38～45mmのスクリュー釘を使用してください。(釘の長さは材厚の3倍以上としてください)
- ◇エアガンで釘またはステーブルを雄サネの上面入墨部に45°の角度で、打ち込んでください。釘の間隔は300mm程度です。エアガンがない場合はドリルで穴をあけ、釘を金槌で打ち込み、ポンチ等で叩いて入れてください。
- ◇釘は下地合板を通して根太にしっかり固定してください。
- ◇木質なので反りや変形があります。施工時には矯正しながらはめ込んでください。

【モルタル下地への施工】

- ◇接着剤は、必ず直貼り用のウレタン樹脂系接着剤を使用してください。部分塗布を避け、くし目コテ等で下地全体に塗布してください。
- ◇木質なので反りや変形があります。施工時には矯正しながらはめ込んでください。
- ◇接着後はゴムハンマーで充分圧着し、強く踏みつけてフロアーの浮きを点検してください。

【床暖房対応フローリングの施工と注意事項】

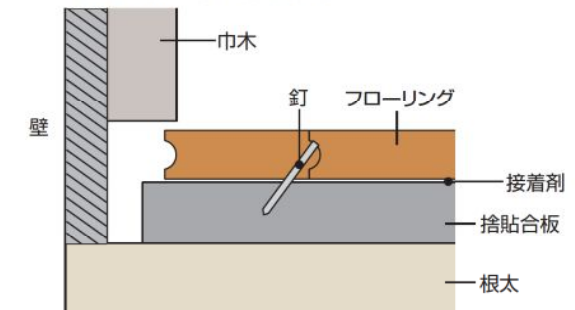
■施工上の注意事項

- ◇部分的な床暖房は避け、床面全体、部屋単位の暖房としてください。
- ◇各床暖房メーカーの施工要領にしたがって、正しく施工してください。
- ◇コンクリート・モルタル埋設型の床暖房システムは、施工する前に必ず試運転を行ない、コンクリート・モルタルを十分に乾燥させてください。コンクリート・モルタルに湿気があるとフローリングが反る場合があります。
- ◇床暖房対応フローリング以外のフローリングはご使用にならないでください。

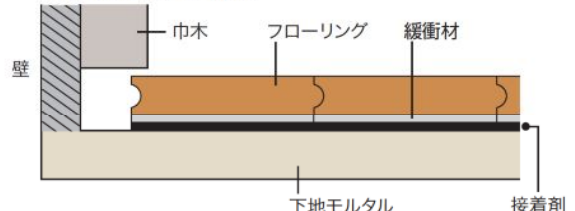
■床暖房使用時の注意事項

- ◇温度の上げすぎに注意してください。床表面温度は25～27℃に維持し、室内の湿度は35%以上を保ってください。
- ◇床暖房により床材が暖められると、材料は収縮しますが、湿度の高くなる季節に材料が伸びることを想定して寸法をとってください。
- ◇低床吹き出しファンヒーターや電気カーペットなどを床暖房施工したフローリングの上で併用しないでください。
- ◇熱がこもらないよう、ピアノなど極端に重いものや、じゅうたん、床面の広い家具など、放熱の妨げになるようなものを置かないでください。
- ◇床暖房使用期間中は低温での連続運転をしてください。

釘・糊併用法(合板捨貼下地)



直貼り工法(モルタル下地)



メンテナンス及び使用上の注意

【日常のお手入れ】

- ◇木質床材は水をさらいますので、水拭きを避け、電気掃除機などで砂やチリを取り除き、乾いた布やダストモップで乾拭きしてください。
- ◇汚れが取れない場合は、雑巾に中性洗剤を染み込ませて、しぼってから軽く拭いてください。
- ◇表面 UV 塗装されているフローリングの場合、ワックス塗布する必要はありませんが、塗布される場合は以下の点にご注意ください。
 - ・UV 塗装フローリングに使用できるタイプの樹脂性木質床用ワックスを必ずお使いください。 推奨ワックス コニシ(株)「ボンド床専用ワックス」
 - ・ワックスは布等に少量を含ませ、フローリング 1 枚 1 枚に薄くのばし、丁寧に塗布してください。
 - ・大量のワックスを一度で塗りますと、小口部分からワックスが浸透し、製品の変色や、ワックスの水分で割れや反り、剥がれ等の不具合が発生する場合がありますのでご注意ください。
- ◇オイル仕上げの商品はメンテナンス専用オイル「アド・アメリカン・ウッド・クリアシール」(WO-GLTB2001) を推奨します。

【床を傷つけないように】

- ◇机、椅子、家具などの床と接触する部分を、ゴムキャップやフェルト等でカバーしてください。プラスチック製のキャップの中で床を傷つけるものは避けてください。
- ◇家具を移動させる場合などは引きずらないように注意してください。
- ◇出入り口など、雨水の持ち込まれる場所には、水切りマット等を置き、床を濡らさないよう注意してください。
- ◇重いものや硬いものを落とさないように注意してください。
- ◇鉄製やプラスチック製の車輪のついた椅子や家具、女性のハイヒール等は床表面の塗膜を傷つける場合があります。

【汚れをつけないように】

- ◇ガム、絵の具、墨などを付着させないようにしてください。
- ◇水や油類をこぼさないようにしてください。万一こぼした際は、すぐに拭き取ってください。
- ◇観葉植物など、鉢の下には水受け皿などを使用してください。
- ◇浴室周辺など水回りの近くではマットなどを使用してください。

【その他】

- ◇フローリングは常態呼吸をしますので、長時間遮蔽物を置かないでください。
- ◇結露した場合は、すぐに乾いた布で拭いてください。
- ◇空気が乾燥することが続くと木質が乾燥し、若干隙間が開くことがあります。湿度が多い季節になると元に戻ってきますので、隙間に硬い詰め物をしないでください。
- ◇フローリングは直射日光の紫外線により変色することがあります。ブラインド等の紫外線対策をお勧めします。

⚠️ 施工前にはフローリングの乾燥状態を必ず維持させてください。

高温多湿な場所、雨がかりの場所などに置かないようにしてください。フローリングを湿った状態で施工しますと、後日フローリングがあばれて、表面ヒビ割れなどの不具合を発生させる原因になります。

⚠️ 養生テープは弱粘性のものを使用してください。

施工後、養生シートで養生する際、養生テープは必ず弱粘性のものを使用してください。養生テープを長期間貼ったままにしていると、テープを剥がす際にフローリング表面の塗膜が剥がれたり、のりが残る恐れがあります。やむを得ず長期間貼ったままにされる場合は、養生テープをフローリングに直接貼らないようにしてください。

⚠️ 養生テープを取り除く時は、ゆっくり剥がしてください。

養生テープを取り除く際はフローリング表面の塗膜剥離を起こす恐れがありますので、テープを床面と並行にしながらゆっくりと剥がしてください。

⚠️ 無塗装フローリングは必ず現場塗装してください。

無塗装フローリングを現場塗装せずに行っていると、表面から水分が浸透し、表面のヒビ割れや複合フローリングであれば化粧単版が合板から剥離するなどの不具合を発生させる原因になります。

⚠️ 接着剤が完全硬化する前に床の上を歩かないでください。

接着不良をおこし、音鳴りの原因になります。

⚠️ 水には気をつけてください。

木は水を吸って伸びますので、水拭きは絶対にしないでください。また、機械での高速洗浄は絶対にやめてください。フローリングの表面の割れや、反り等の不具合が生じることがあります。正しいメンテナンスによって、フローリングを綺麗に保つことができます。

⚠️ 無垢フローリング、施工上の留意点

無垢フローリングは、複合フローリングに比べて膨張収縮率が高いので、施工には特に注意が必要です。壁際などとのすき間を充分にとらなかつたり、季節的な要因による材料の伸縮を無視した施工は、後日、目地部分の突き上げや隙間を発生させます。壁際との隙間をきちんと取る、フローリング密着部分にきちんと隙間を取る、施工スパンが 10m 以上の場合はエキスパンションを取るなどの施工上の対策をお願いいたします。

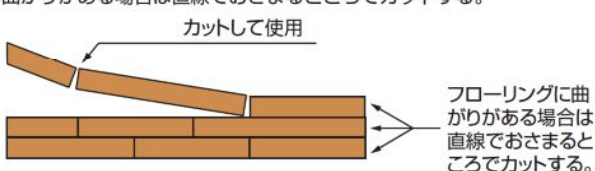
⚠️ 床鳴り

音の程度にもよりますが、フローリングは木の特性上、継ぎ目がこすれて音が発生することがあります。天然素材であるため、調整機能が働き伸び縮みが生じることによって発生するもので、製品の性能上特に問題はありません。

- 反りの場合はフローリングを押さえて釘打ちする。



- 曲がりがある場合は直線でおさまるところでカットする。



専用接着剤(釘・糊併用工法用)
アドボン 8000E
(AB-8000E)

F☆☆☆☆
認定区分: JIS

1 液ウレタン樹脂系フローリング用接着剤

[用途] 木質下地剤とフローリングとの接着
 ※床暖房フローリングにも使用できます。
 ※コーキングガンが必要です。(商品に含まれていません)
 ※直貼り工法には使用できません。

[標準塗布面積] 約 6 m² / 1 本 (850ml)
 [販売単位] 1 本単位
 [販売価格] ¥1,500/ 本
 [標準貼付可能時間] 夏季: 約 20 分 冬季: 約 60 分
 [標準硬化時間] 夏季: 約 半日 冬季: 約 1 日

